

オルガノ株式会社 個人投資家向け会社説明会資料

(証券コード：6368)

2024年8月20日

目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方

会社概要

会社概要

本社所在地	東京都江東区新砂1丁目2番8号
設立	1946年5月1日
資本金	8,225 百万円
従業員数	2,512名 (連結 2024年3月31日現在)

創業の経緯

長野県諏訪市で創業。

日本初のイオン交換装置を主要営業品目とする企業として発足。

戦後の復興と日本経済の再建に伴う産業界からのさまざまな要請に応じて、研究や装置の開発に注力し、水処理、糖類精製などの分野で実績を築いてきました。

社名の由来



当社の基幹材でありますイオン交換樹脂は、天然産の無機ゼオライトに対して、**有機ゼオライト（オルガニックゼオライト）**、略名【**オルガノライト**】と呼ばれており、これが社名の由来です。

シンボルマークの由来



水、空気、大地（地球）は人間（生物）が生きていくためのもっとも重要な三要素と言われています。当社のシンボルマークはこの水、空気、地球を表したものです。

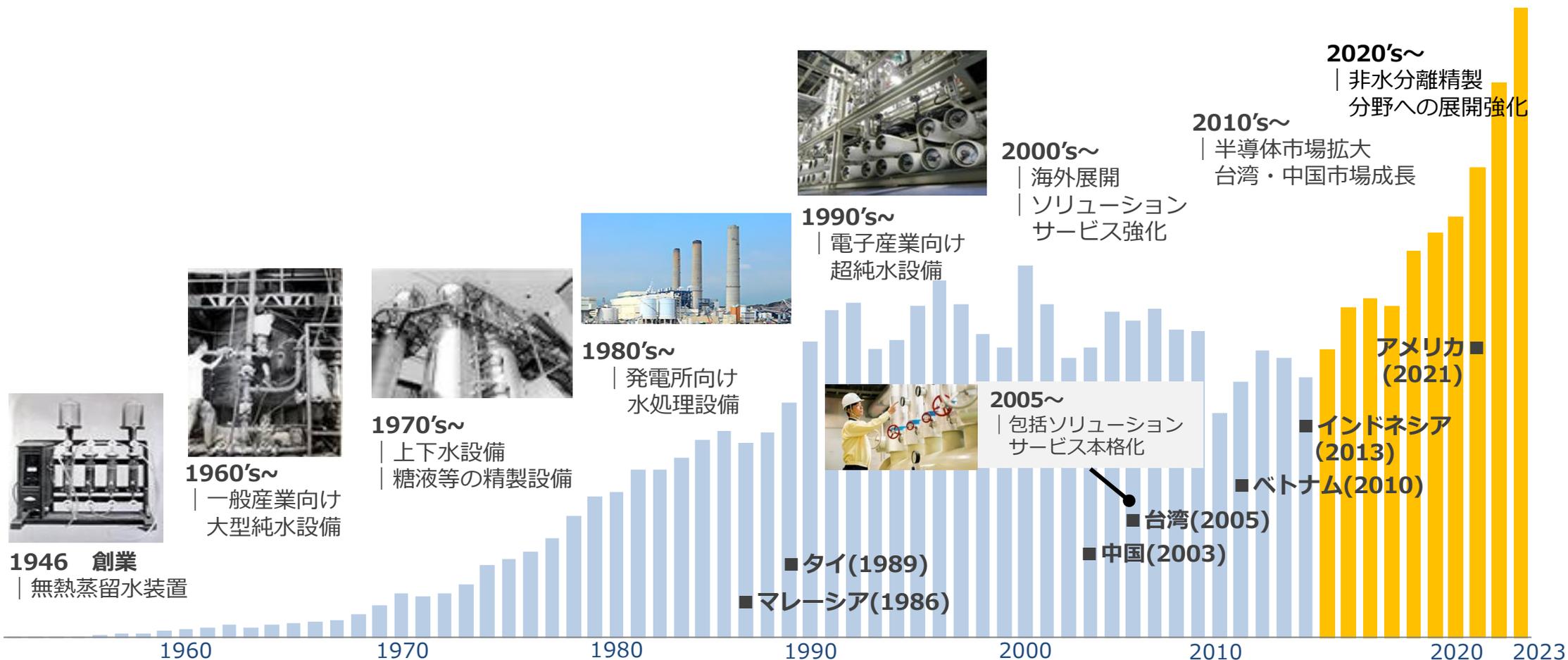
オルガノの歩み (グラフは売上高推移)

創業期

成長期

成熟期

飛躍期



オルガノの事業構成

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



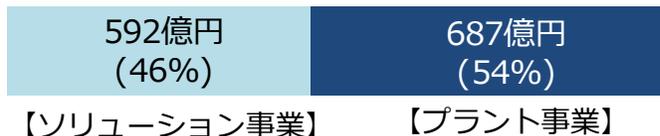
純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業

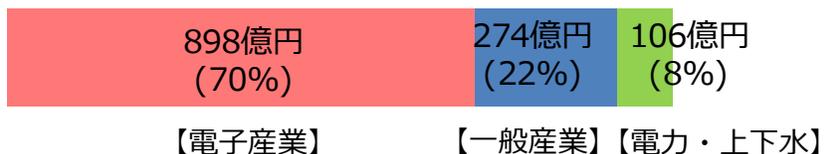


設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型水処理機器・フィルタ事業



純水・超純水装置
浄水フィルタ

| 食品事業



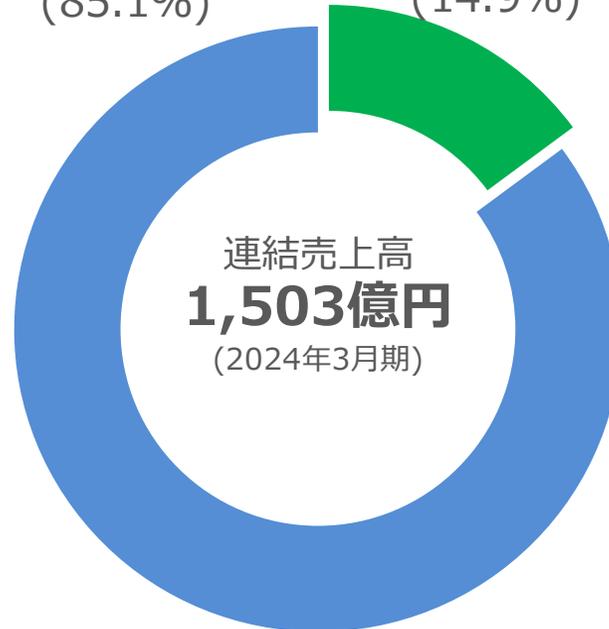
食品添加剤・加工剤
食品素材

| 事業別売上高



1,279億円
(85.1%)

223億円
(14.9%)



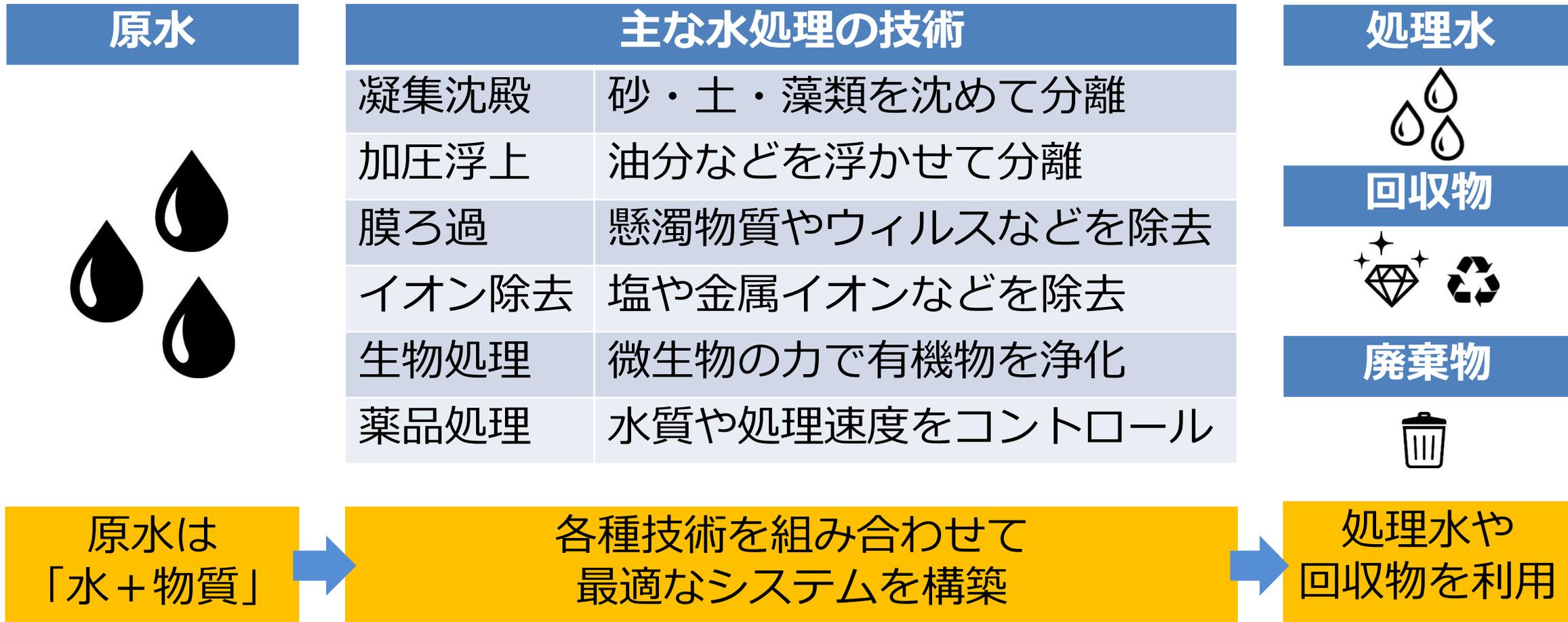
※金額は24.3期売上高、%は売上構成比率

目次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方

オルガノの技術

各種技術を組み合わせたシステムで必要な物質を分離・精製



水処理の目的

目に見えるもの

: 砂・泥・藻類など

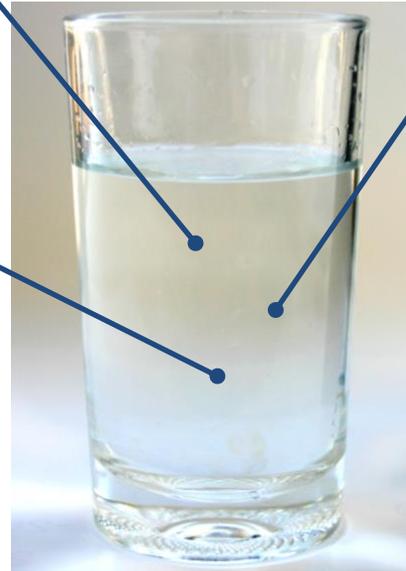
⇒凝集沈殿・砂ろ過処理

水に溶解しているもの

: 砂糖や塩など

⇒RO(逆浸透)膜/
イオン交換樹脂による

イオン除去



目に見えない微小なもの

: 微生物

(バクテリア・ウィルス)

: 土壌由来の懸濁

コロイド物質など

⇒MF/UFなど膜処理

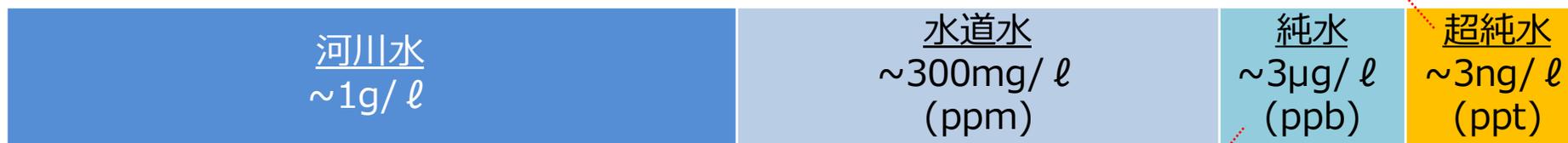
水処理とは「水質を目的・用途にあった最適な状態にすること」

カルシウムやマグネシウムなどの硬度成分は飲料用には(適度に)必要な成分だが、
ボイラー用水や洗浄用水など工業用途では不要なため除去を行う

純水・超純水とは・・・？

水中の成分・不純物を極限まで除去することで、
製品の歩留まり・品質向上、設備の安定運転などに貢献

■ 1ℓ 当たりの成分・不純物量比較

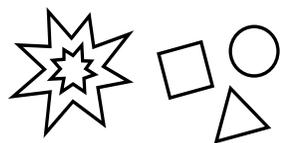


(主な水処理技術)

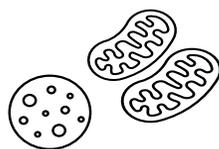


- 半導体や電子部品等の洗浄
- 火力・原子力発電タービン用水
- 医療・研究機関等での微量分析

(主な成分・不純物)

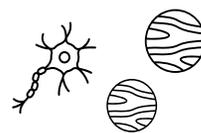


懸濁質 (砂・粘土)
~1mm



細菌・藻類
~1μm

1μm=1千分の1mm



ウイルス・微粒子
~30nm



パーティクル
~10nm



糖類・溶解塩類
~1nm

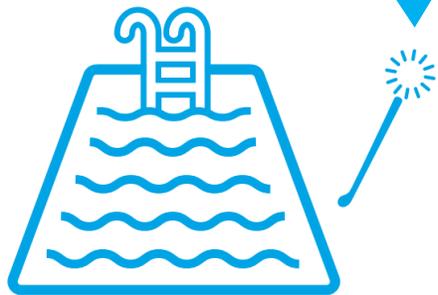
1nm=百万分の1mm

オルガノの3つの強み

高度な 分離精製技術と 分析技術

不要な成分を分離して除く

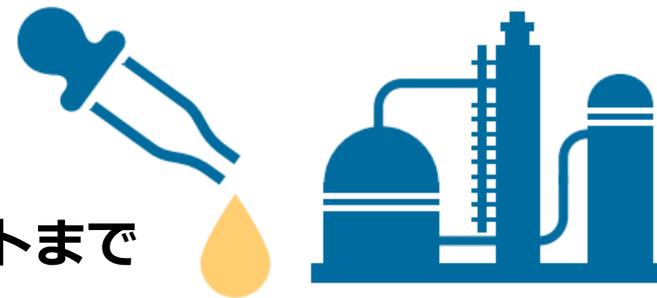
50mプールに耳かき1杯分



不純物濃度 1ppt以下

幅広い 対応 技術

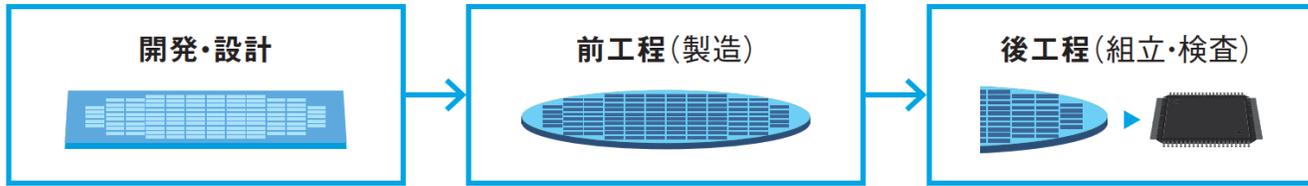
1滴から
大容量プラントまで



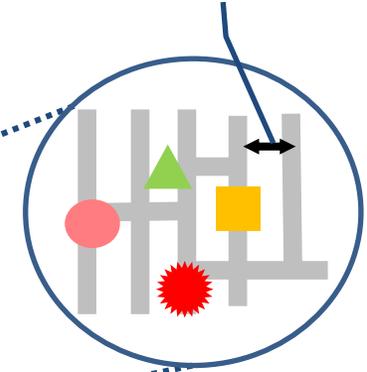
幅広い 実績



半導体製造工場向け超純水



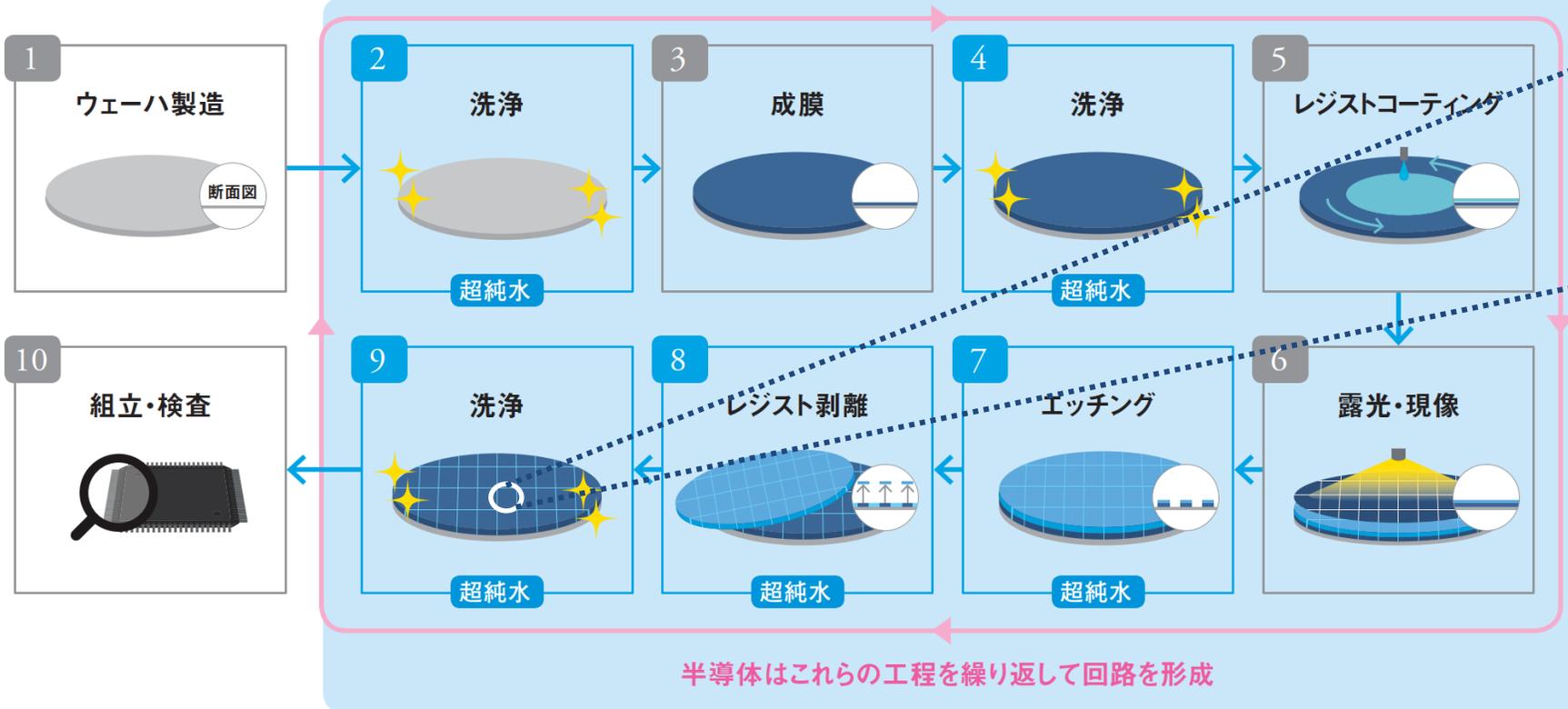
最先端半導体の回路幅
(線幅) は10nm以下



微粒子などが回路に付着すると
絶縁やショートが発生
⇒歩留まり(良品率)が悪化



ナノレベルの不純物まで
除去した超純水が必要!



スーパーカミオカンデに超純水を供給

超純水製造装置

地下1000mの、水の望遠鏡。

「スーパーカミオカンデ」は、ビッグバンの痕跡や銀河の起源など、宇宙からの情報をとらえるための、いわば巨大な水の望遠鏡。ここには、オルガノの純水製造装置がつくりだす、50,000tの超純水が常に満たされています。



A B ラドン除去空気製造装置

ラドンガスを百万分の1まで除去した空気を、スーパーカミオカンデ実験水層上部に送り込みます。このことにより、ラドンガスが空気中から水中に溶け込むのを防ぎます。

A 活性成層

B 除湿 除CO 装置

ベビーコンプレッサ

空気貯槽

⑤ カートリッジポリシャ

水中のイオンをほぼ完全に取り除く、特別に精製されたイオン交換装置です。

⑥ UF膜装置

百万分の1ミリより大きいゴミ(分子量1万程度)を取り除きます。

④ 真空脱気装置

ラドンガスや酸素ガスなどを取り除きます。

③ 紫外線殺菌装置

紫外線で大腸菌などの細菌を殺します。

⑦ スーパーカミオカンデ

地下1000m、50,000トンの超純水。

(循環時、70トン/時)

④ 真空脱気塔

③ UV殺菌器

カートリッジポリシャ

② イオン交換樹脂塔



② イオン交換装置

カルシウムやウランなどのイオンを取り除きます。

① RO膜装置 (逆浸透膜装置)

イオン、千万分の1ミリより大きいゴミ、細菌などをまづ取るだけ取り除きます。

原水

神岡鉱山の地下水です。既に大変清浄です。

① ROユニット

副高圧ポンプ

副安全フィルタ

主安全フィルタ

UF濃縮水タンク

透過水タンク

動力・制御室

⑥ UFユニット



スーパーカミオカンデでは信じられない超純水を使用します。その理由は主に2つあります。

①まず、水中で発生したチェレンコフ光を壁に設置した光電子増倍管で検出するため、水中で光が減衰しないようにゴミ等を極限(100あたり1万分の1ミリ以上のゴミが100個以下)まで取り除く必要があります。

②また、通常の物質中に含まれるウランやラジウムなどの天然放射性元素が太陽ニュートリノ等の観測の邪魔になるためこれらを徹底的(100あたりラジウム原子50個以下)に取り除く必要があります。

この装置は50,000トンスーパーカミオカンデ実験水層に超純水を2ヶ月で満たす能力があります。また、一度水層を純水で満たした後は、1ヶ月に1回の割合で水を循環精製し、更に精度を上げていきます。

研究開発：東京大学宇宙線研究所
オルガノ株式会社

目次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方

24.3期実績・25.3期計画の概要

2024年3月期 実績

(単位：百万円)	24.3期実績	前期比	前回見込比 (2024.2.2)
受注高	144,468	-29,023 (-16.7%)	+968 (+0.7%)
売上高	150,356	+17,930 (+13.5%)	+356 (+0.2%)
営業利益	22,544	+7,332 (+48.2%)	+544 (+2.5%)
(%)	15.0%	+3.5pt	+0.3pt
ROE(%)	18.4%	+3.9pt	+1.7pt

- 受注高は大型案件が続いた前期の反動もあり減少もソリューション事業や一般産業など好調に推移
- 売上高は国内外で受注残案件の工事が順調に進捗。設備保有型などソリューション事業の伸長も寄与
- 営業利益は売上拡大の効果に加え、受注採算性の改善や原価低減などの取組みによって利益率が向上

2025年3月期 計画

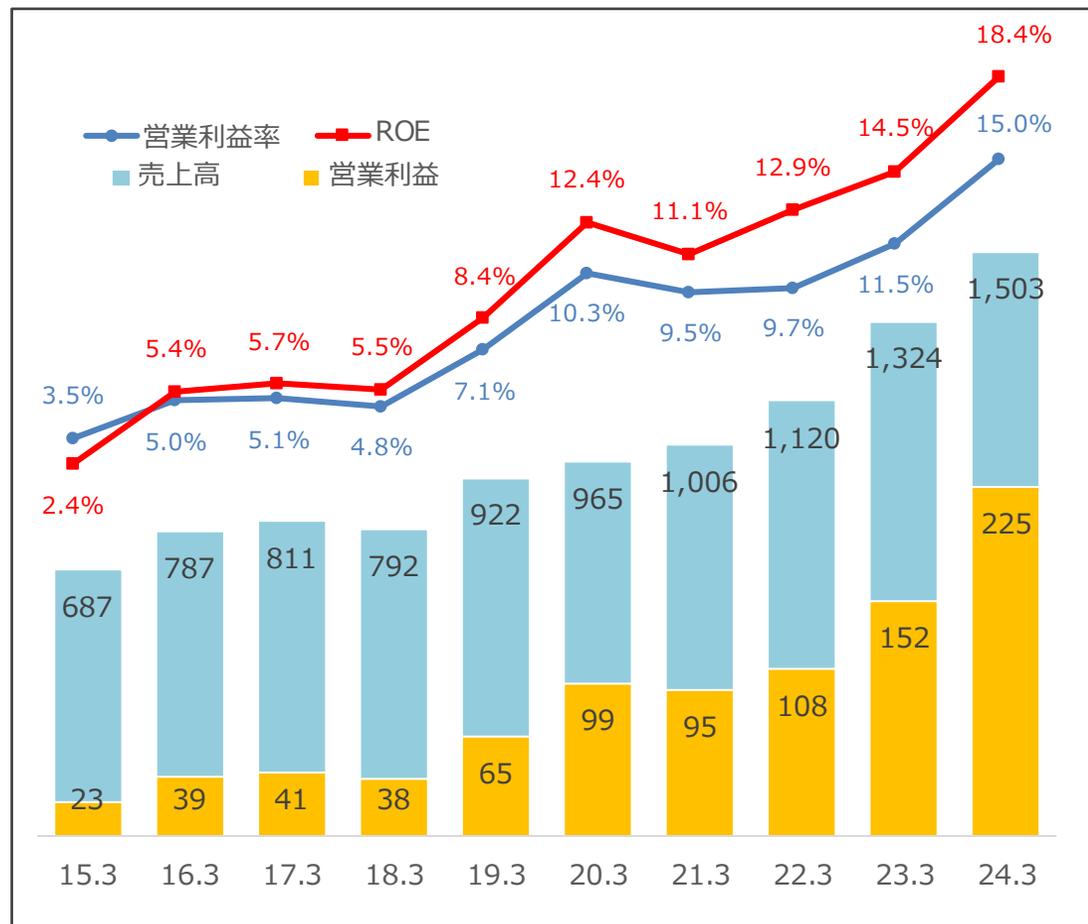
(単位：百万円)	25.3期計画 (2024.7.31修正)	前期比
受注高	165,000	+20,531 (+14.2%)
売上高	160,000	+9,643 (+6.4%)
営業利益	24,500	+1,956 (+8.7%)
(%)	15.3%	+0.3pt
ROE(%)	15.0%	-3.4pt

- 受注高は投資意欲活発な半導体分野を中心に、国内外で設備投資が高水準で推移することを想定
- 売上高は受注案件の工事進捗に加え、ソリューション事業の拡大や水処理薬品等の拡販も計画
- 営業利益は15%前後の利益率を維持。さらなる成長や納入キャパシティの拡大に向けた投資を強化

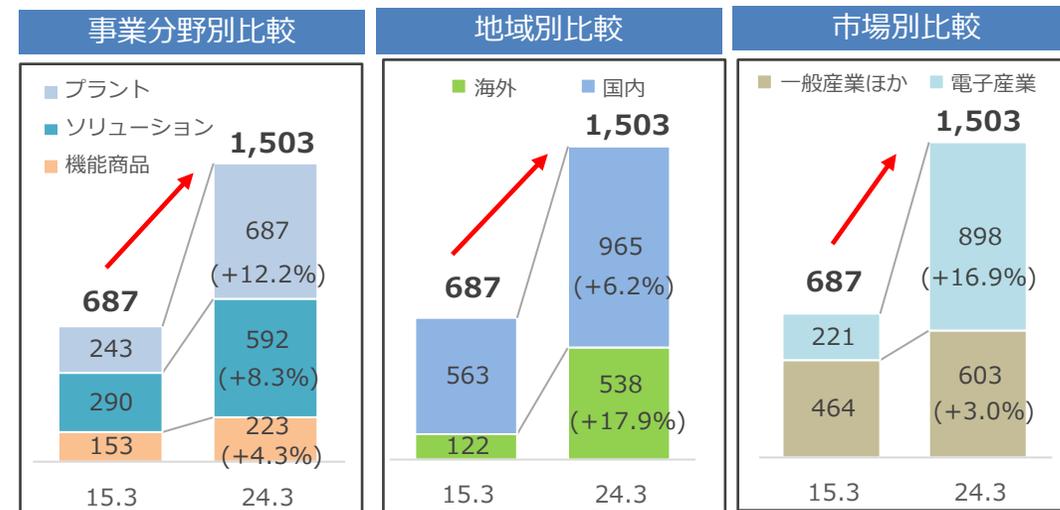
中長期計画：直近10年間の振り返り

(単位：億円)

業績の推移(2015.3~2024.3)



売上構成の比較(カッコ内はCAGR)



●直近10年間の振り返り

- ・プラントの売上拡大に伴ってソリューション・機能商品の売上も成長
- ・国内・海外とも電子産業向け中心に成長、海外は台湾・中国・マレーシア・北米などが拡大
- ・収益性の改善はソリューション・機能商品の売上拡大に加え、プラント案件の採算性向上が寄与

中長期計画：企業価値向上への取組み

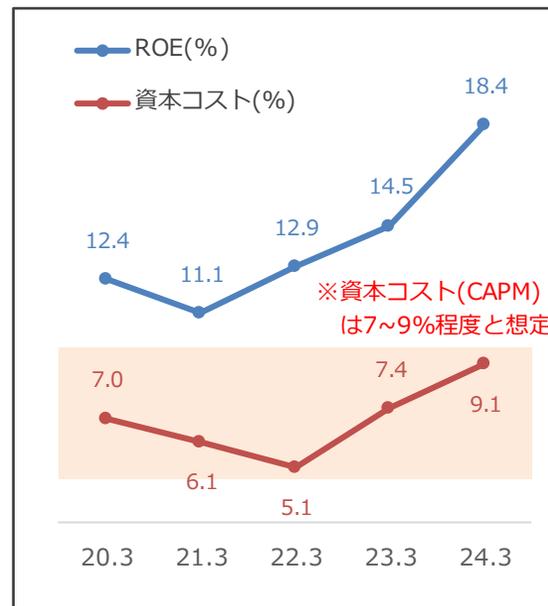
一株当たり指標と株価・PER・PBRの推移



■ 売上・利益の伸長など業績の拡大に加え、増配の継続など株主還元施策やIR活動の強化などにも注力。株価も上昇傾向で推移しており、PER・PBRも大きく改善

※PBRは「期末日株価÷一株当たり純資産」、PERは「期末日株価÷一株当たり純利益」で計算

資本コストとROE



● ROEの分解(24.3期)

ROE	=	収益性	×	効率性	×	レバレッジ
18.4%		11.5%		0.87回		1.85倍
		当期純利益率		総資産回転率		財務レバレッジ

【ROE改善方針】

- ・ 売上の拡大や利益率の改善
- ・ 売掛金や在庫の削減などによる資金効率の改善
- ・ 株主還元の拡大や成長投資への借入金活用など資本構成の最適化

■ 株価や金利の動向を背景に資本コストは9%程度まで上昇も当社ROEが上回る状況続く。中長期計画では資本コストを上回る**ROE12%以上を必達目標**とし、さらなる改善を目指す

※資本コストはCAPM($R_f + \beta(R_m - R_f)$)で算出

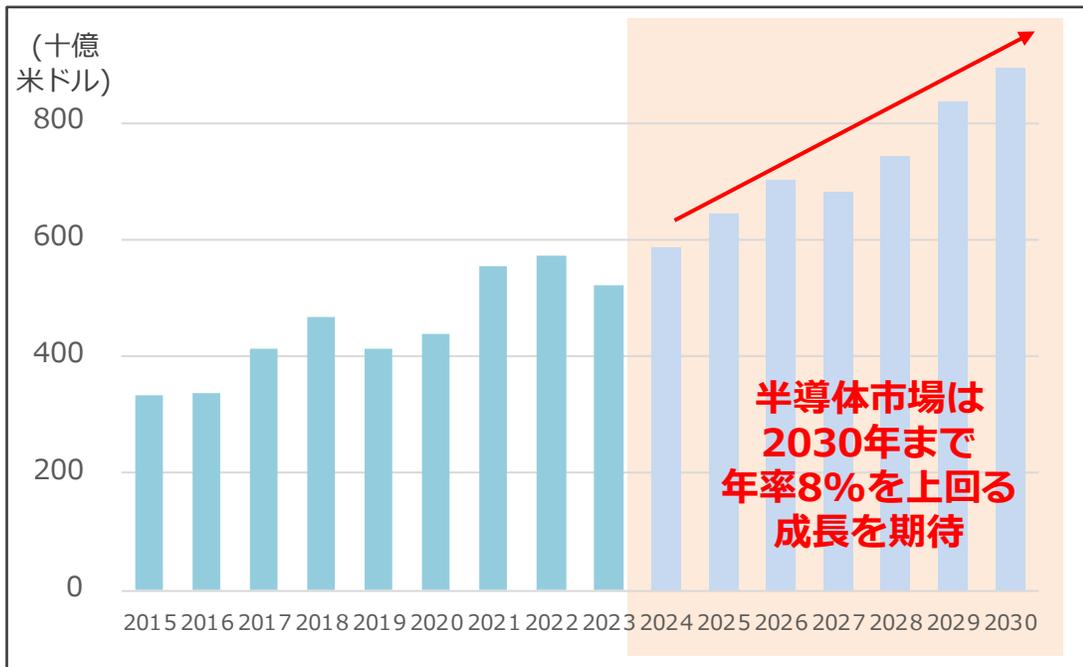
R_f (リスクフリーレート)：長期国債(10年)利回り：0.8%前後

β (β値)：株価変動率(3年推計)：1.6前後

R_m (マーケットリスクプレミアム)：株式期待利回り：6%前後

中長期計画：半導体市場の見通し

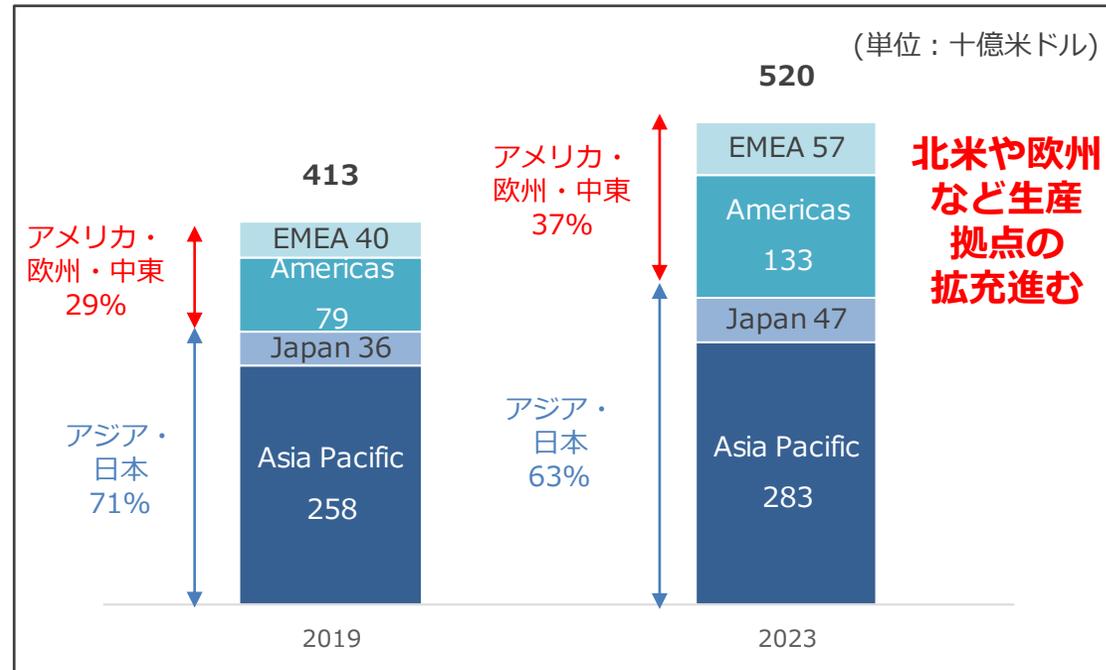
半導体市場予測(WSTS予測より当社想定)



■ 半導体市場は拡大予測

A I やEVなどの進展により2030年までの半導体市場は2015~2023年までの成長率を上回る成長を期待。これに伴ない半導体材料や電子部品などの需要も拡大

地域別半導体市場(WSTS調べ)

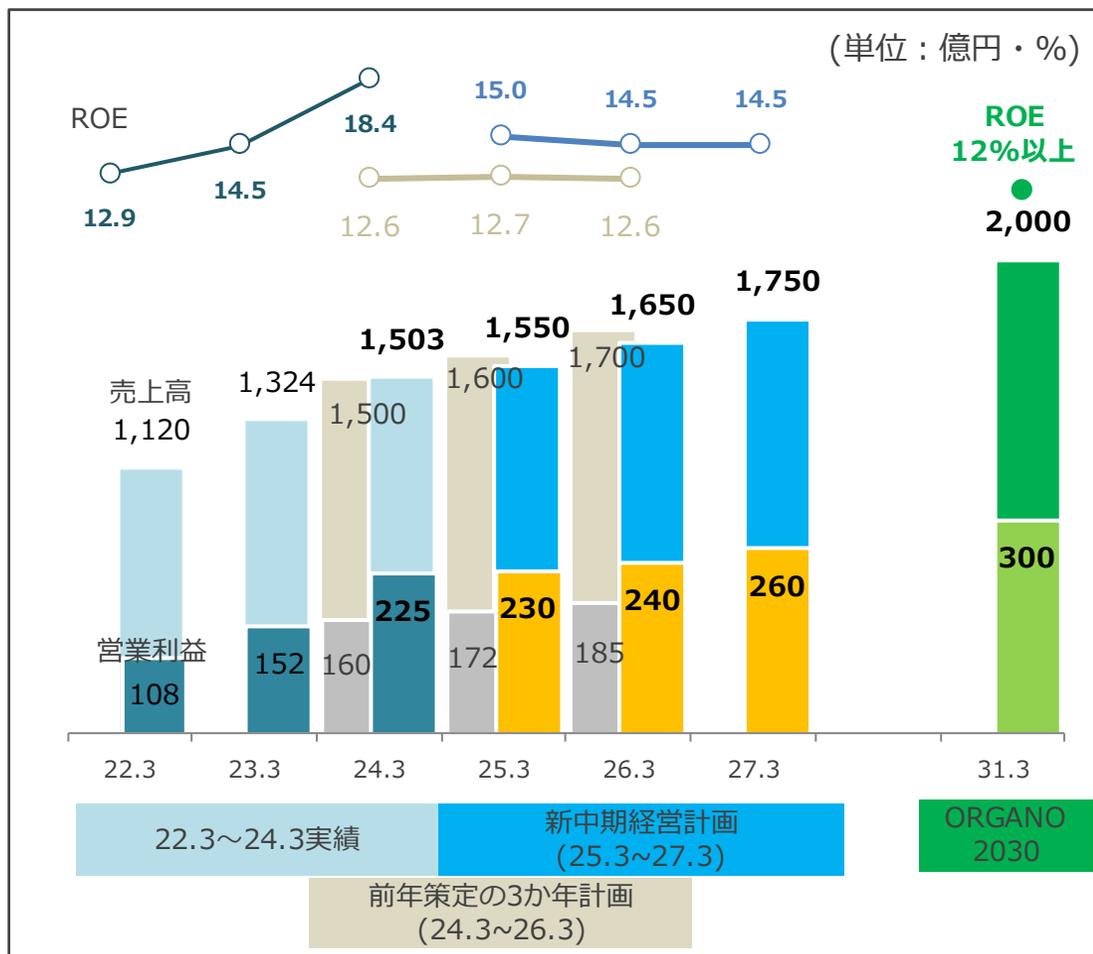


■ 半導体サプライチェーンの再構築

米中摩擦や台湾問題など地政学リスクを背景に、半導体サプライチェーンの世界的な再構築が進む。アジアからアメリカ・欧州などに生産拠点を移管する動きが進む

中長期計画：計画の概要

中長期計画の目標値



■ 中長期計画の概要

- ・長期計画“ORGANO2030”に基づき、毎年3か年の計画をローリングして策定
- ・長期計画は2030年度に売上高2,000億円以上、営業利益15%以上、ROE12%以上を目指す
- ・3か年計画では2026年度に売上高1,750億円・営業利益260億円の達成を目指す

■ 次期3か年計画

- ・国内外で計画される半導体関連の複数の大型案件の受注を想定、現状の「延長線」で計画
- ・エンジニアリングキャパシティの拡充を推進
- ・設備保有型契約や各種メンテ・薬品などソリューションや機能商品の拡大にも取り組む

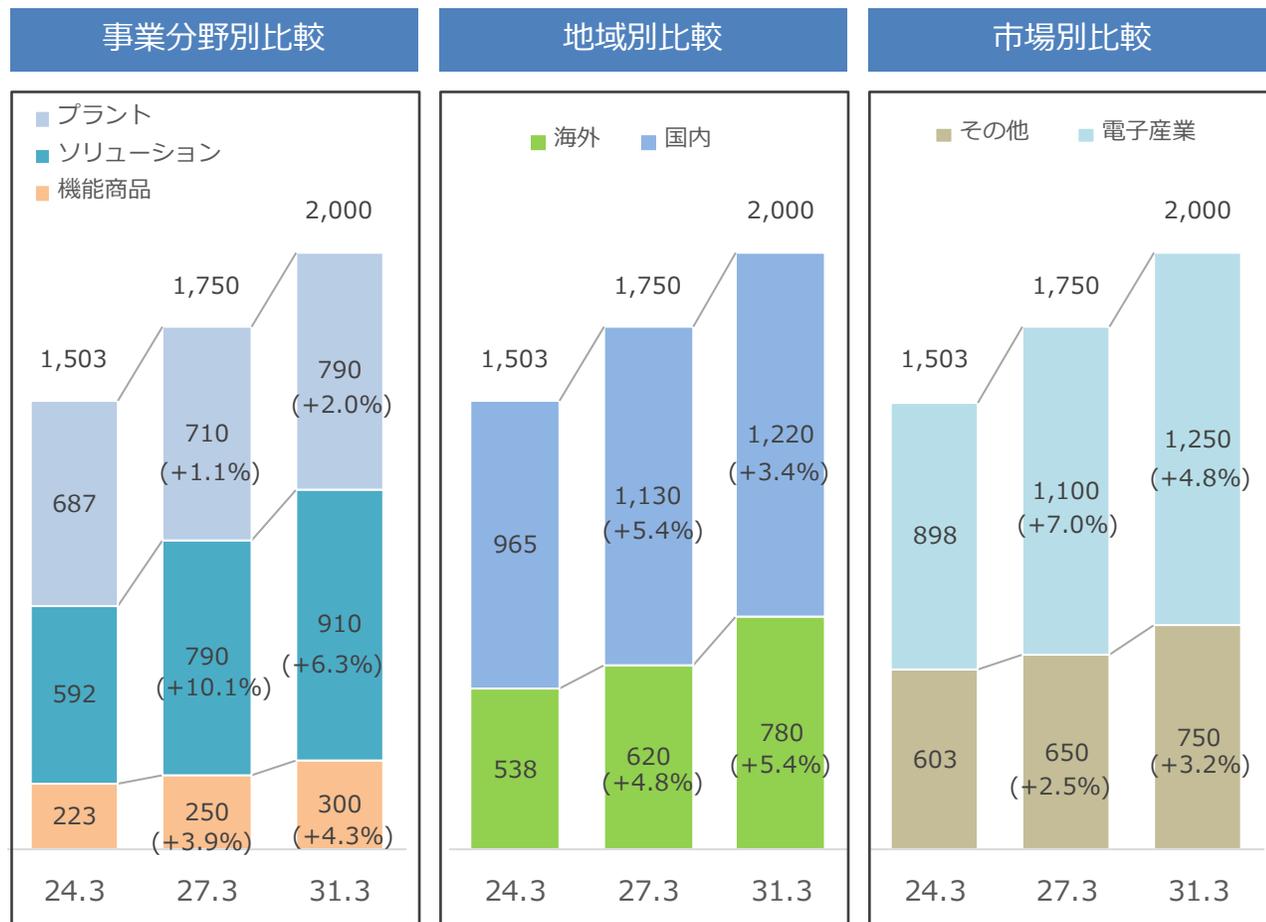
■ 長期計画“ORGANO2030”

- ・アメリカでの展開などグローバル戦略を強化
- ・高度分離精製や水回収など、省エネや脱炭素などサステナビリティ課題に貢献する新たなソリューションサービスを拡充
- ・M&Aなどインオーガニックな成長にも取り組む

中長期計画：部門別計画

(単位：億円)

売上構成の比較(カッコ内はCAGR)



■ 半導体など電子産業分野の拡大

国内外で計画が進む大型の半導体投資の受注を想定。エンジニアリング・キャパシティ拡充に向けグローバルでの人的資本の強化やM&A・パートナーシップ施策の強化、デジタル投資などを拡充

■ ソリューション・機能商品の拡大

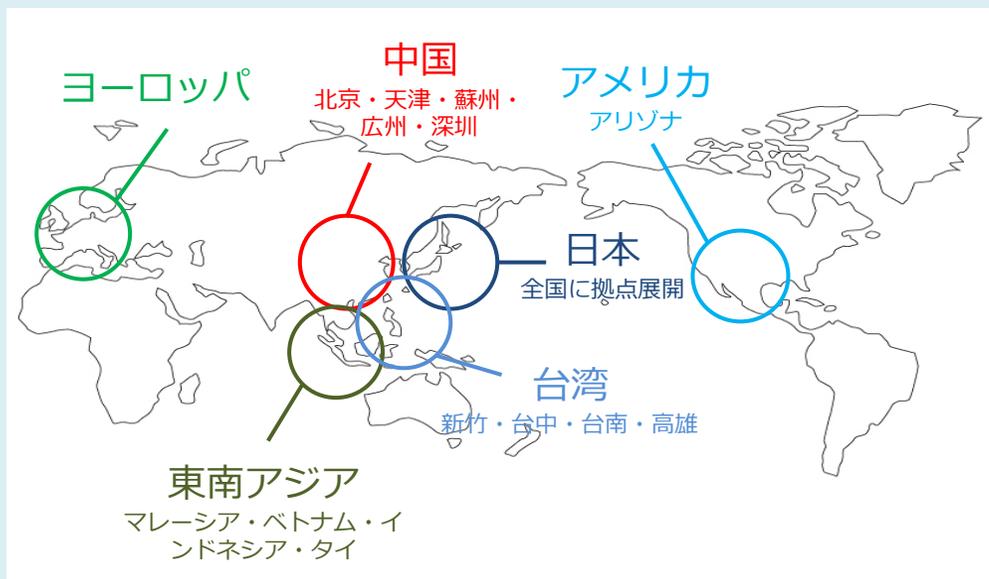
設備保有型契約の拡大や、国内外で納入が進む大型プラントに対するメンテナンス、水処理薬品の拡販などに加え、省エネ・脱炭素などサステナビリティ課題に向けたソリューションサービスや機能商品の展開を強化

■ 新たな事業・地域への展開

2030年までに半導体やリチウムイオンバッテリーなどの分野で展開を図る高度分離精製技術を50億円、半導体など北米での事業を100億円まで拡大する計画

中長期計画：グローバル展開戦略

グローバル展開戦略



■アメリカ

半導体産業への500億ドルの投資を含むCHIPS法成立。2021年設立の現地法人の強化を進める。半導体向けの水処理に加え、分離精製やその他のビジネス展開も図る

■中国

半導体産業に1兆元の投資を計画。EVなどに向けた半導体投資が活発。米国の規制動向なども踏まえながら事業体制を強化する

■台湾

最先端の半導体投資に向けた開発を進め、技術的な優位性をさらに強化する。顧客のグローバル展開への対応や、現地での研究開発やマーケティング体制の強化も図る

■ヨーロッパ

半導体関連産業に400億ユーロを超える支援を計画。現時点では具体的な進出計画はないが、顧客の投資動向などに合わせて進出可否の検討を進める

■日本

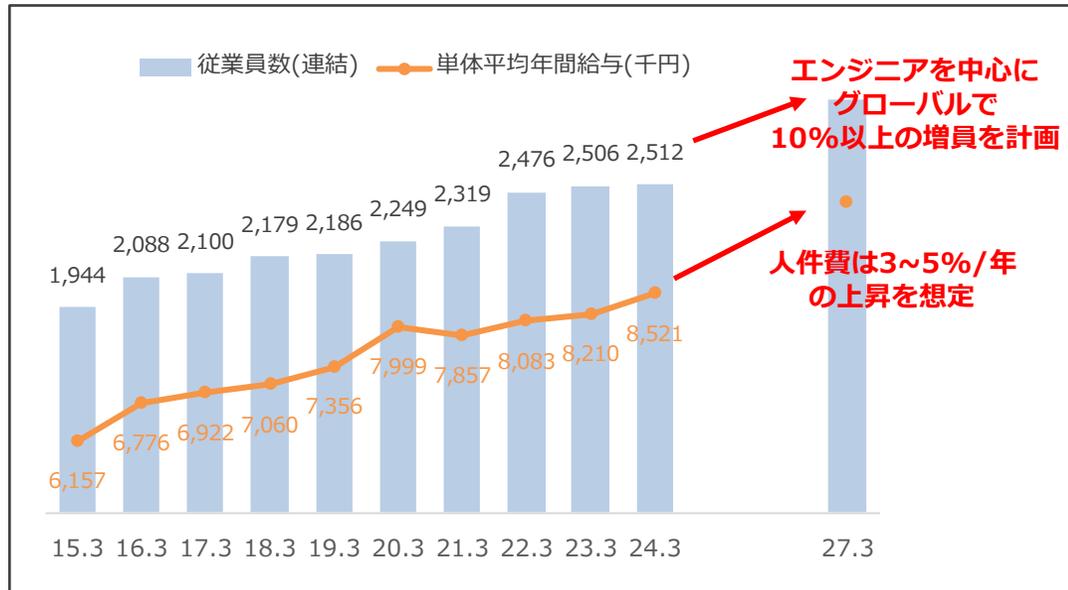
大型の半導体投資が複数計画。エンジニアリング・キャパシティの強化やソリューション体制の整備を進める

■東南アジア

マレーシアやシンガポールで半導体関連の大型投資計画あり。現法の体制を強化し事業拡大を図る。現地でエンジニアを採用・育成しグローバル人材として活用するプログラムにも取り組む

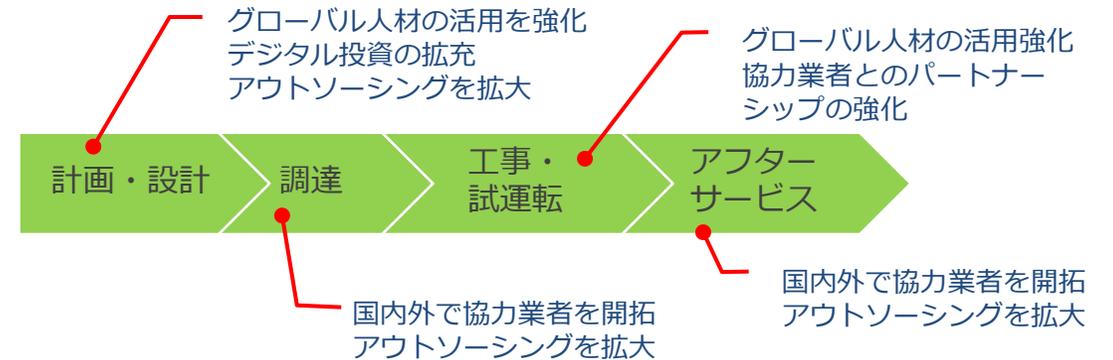
中長期計画：人的資本の強化とエンジニアキャパシティの拡充

人的資本の強化施策



- 海外人材や経験者・女性の採用拡大など**人材の多様化**に向けた取り組み推進
- スキルマップやローテーションプランの整備などの**育成/リスクリング施策**を拡充
- 賃上げなど従業員への還元も積極的に進めるなど**人的投資を拡大**

エンジニアリング・キャパシティの拡充



- ベトナムに設立したグローバルエンジニアリングセンターや各現法などで採用したエンジニアをグローバルに活用するプログラムを推進
- エンジニアリングシステムなどデジタル投資を拡充。設計業務の効率化やコスト管理の精度向上、運転管理データの活用などを進める
- 協力業者の開拓を進めアウトソーシングを拡大
M&Aなども視野にバリューチェーンを強化

中長期計画：新たな技術・サービスの展開

高度分離精製技術の展開

■ 非水溶液等の高度分離精製

半導体の洗浄や乾燥工程などで使用する薬液・溶媒などの高純度化要求に応えるイオン交換樹脂の開発

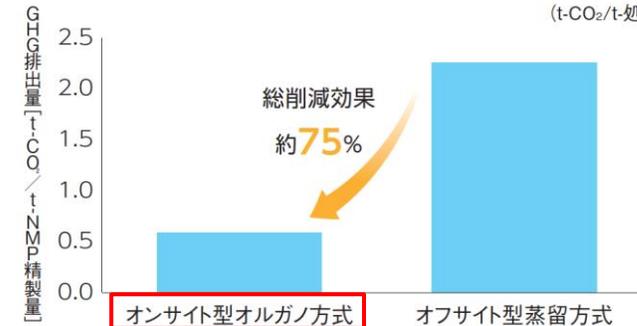


；腐食等の原因となる金属イオンなど不純物の除去や含水率の低減により歩留まりの改善に貢献

■ リチウムイオン電池の溶剤回収

正極材製造に用いられる溶剤のリサイクル設備の展開

○ ライフサイクルCO₂排出量



；LIB生産工場向けに初の実証機を導入、
；使用済の溶媒を効率的に回収、CO₂排出量を従来比約75%の低減を見込む

データ・デジタル技術を活用した顧客価値創造

■ AIを用いた省エネ、省人化

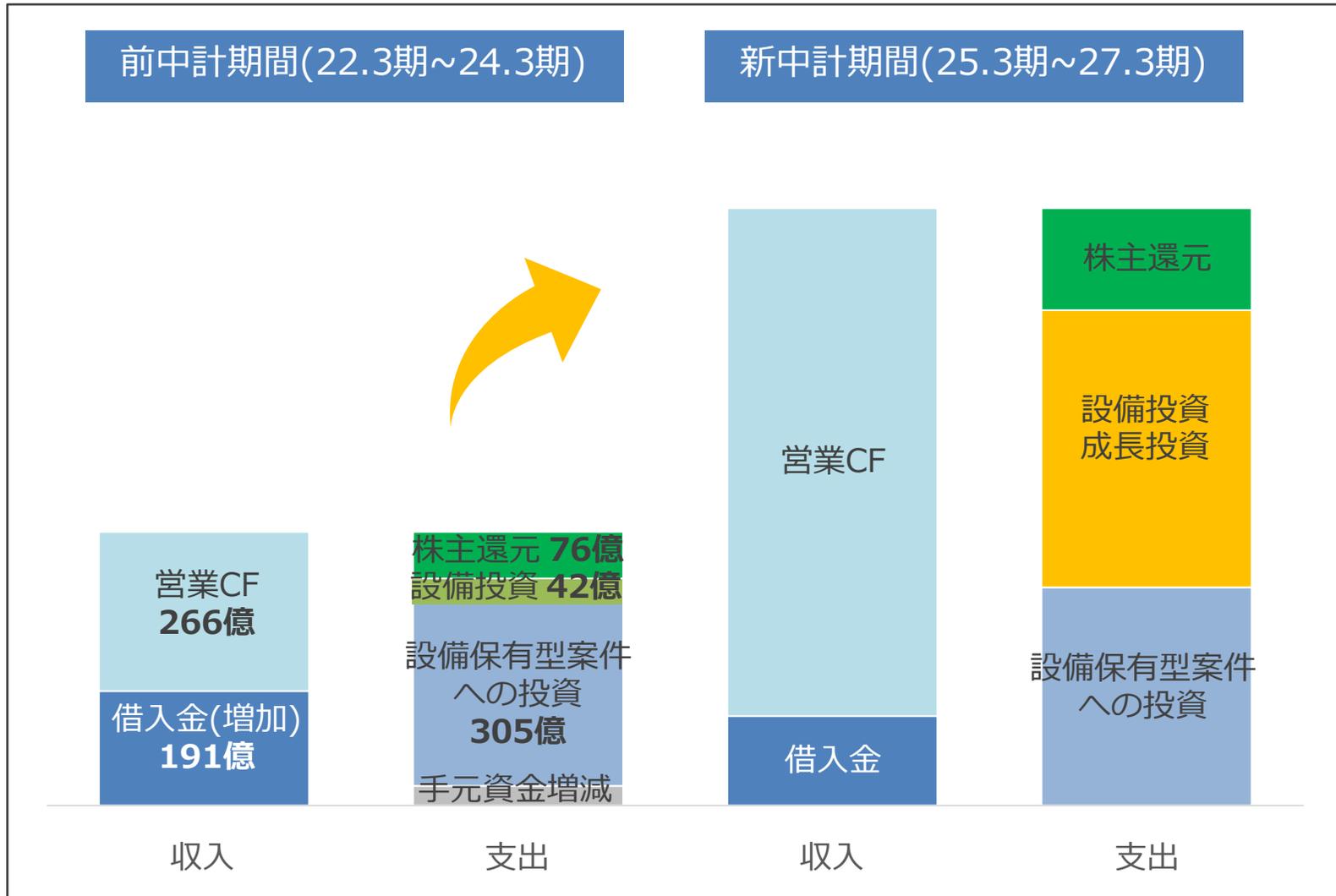
薬品注入量の最適化、逆浸透膜(RO膜)設備の運転管理サービスにAIを活用

■ ソリューションの高度化を推進

あらゆるデータを一括管理するデータウェアハウスを構築中、ソリューションサービスの高度化を推進



中長期計画：キャピタルアロケーション

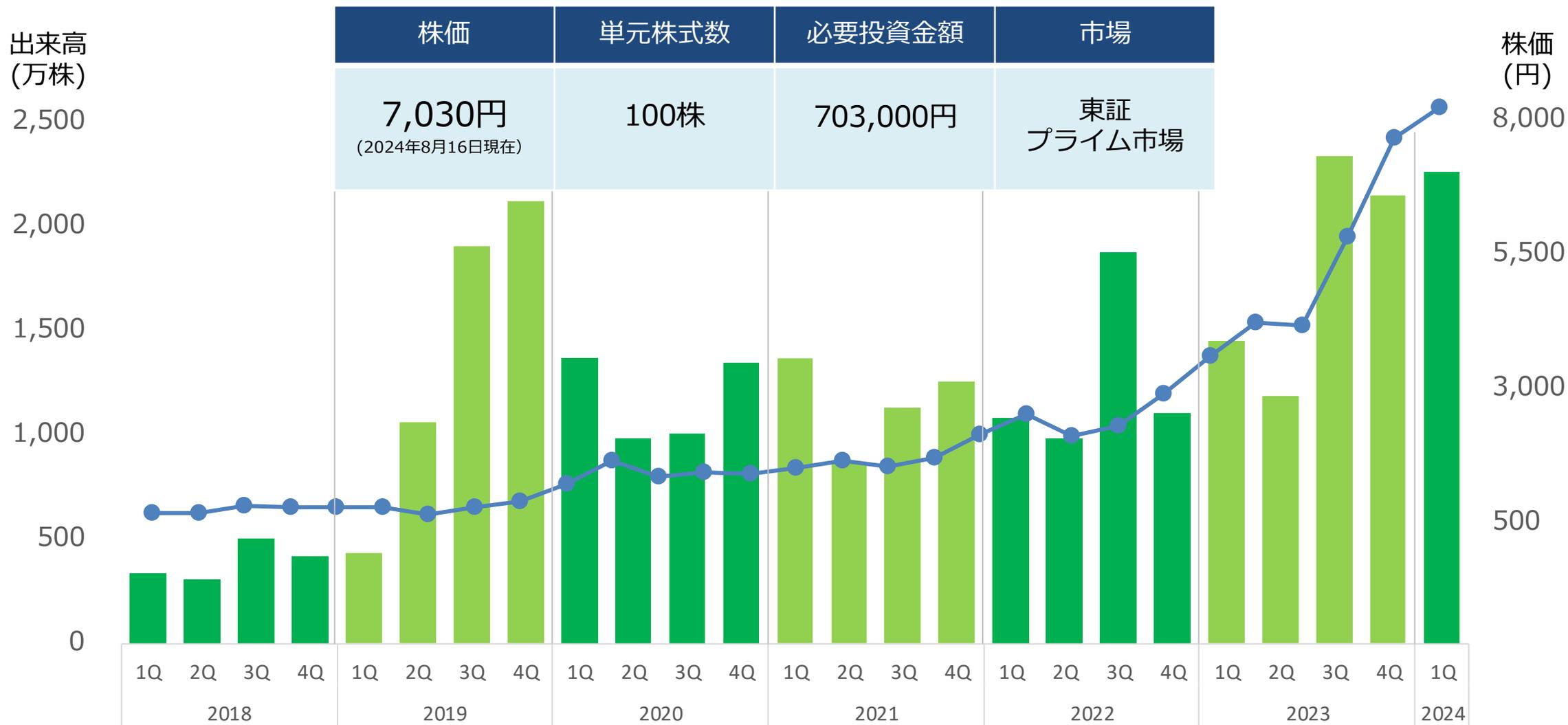


- 成長投資として人的資本や研究開発、デジタルなどへの投資に加え、M&Aなどインオーガニックな成長に向けた投資の拡大を図る。設備保有型への投資は前中計期間と同程度を想定
- 現預金は現行水準である月商の1.5~2.0倍程度を目安とする。株主還元も強化しつつ、借入金も活用し成長投資を拡大

目次

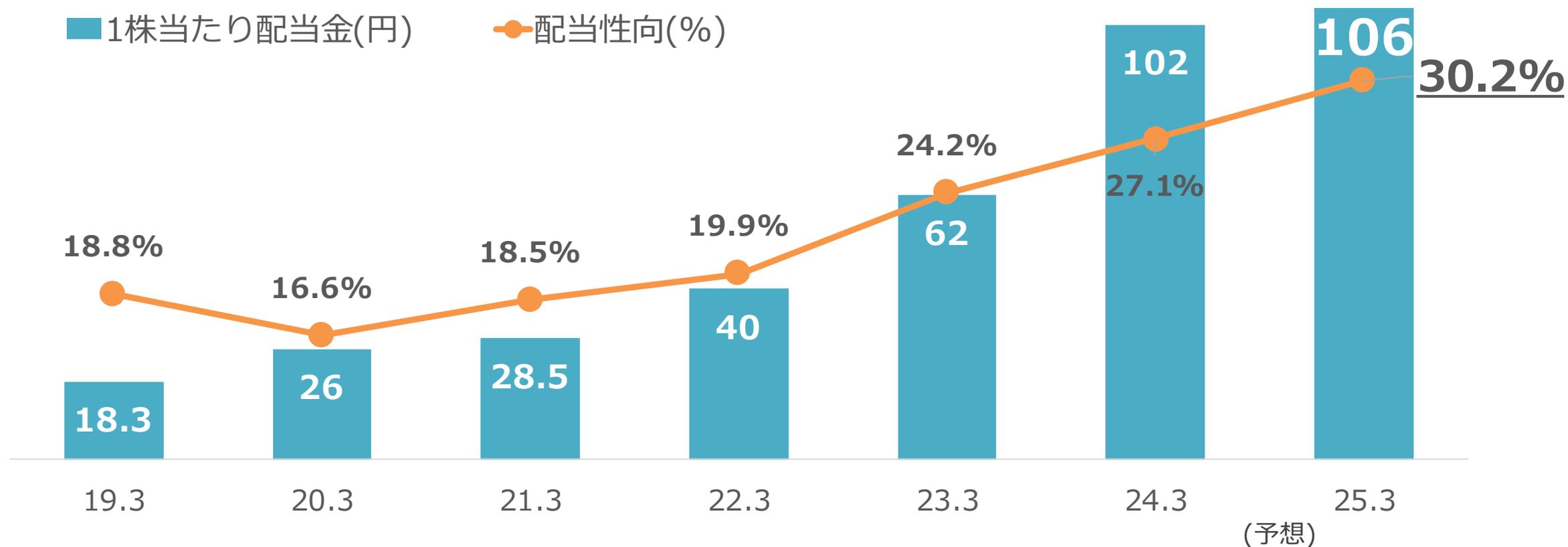
1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方

株価の動向



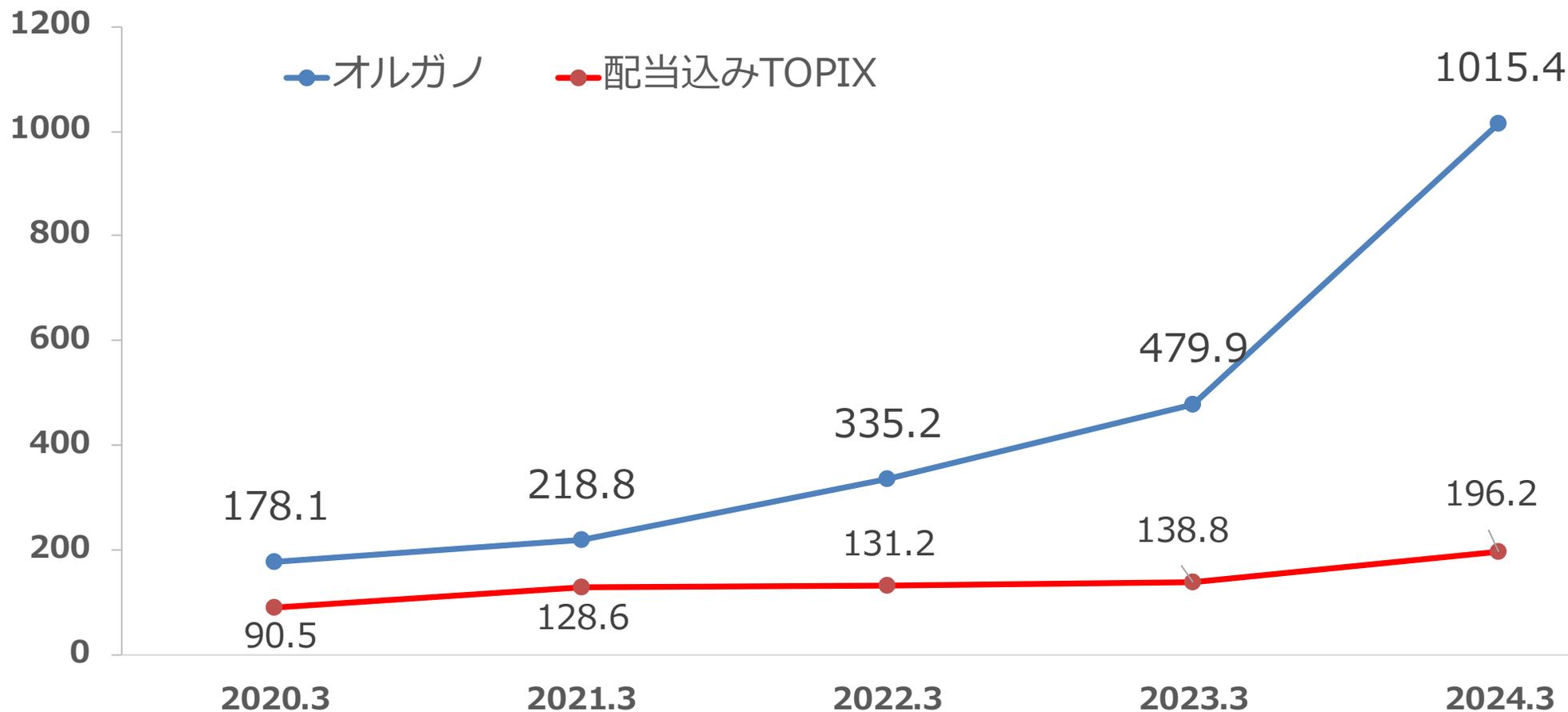
株主還元方針

増配の継続と配当性向30%以上の水準を目標、
株主還元と成長投資の両立と拡大を目指す



オルガノのTSR(株主総利回り)推移

株価上昇・増配継続でTOPIXを大きく上回る利回りを達成



※2022年10月の株式4分割の影響を考慮し算定

お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部 IRグループ

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録 (New)

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。